

## 滋賀県 家族を介護する方の実態把握のための ケアマネジャーインタビュー調査結果

- 1 介護離職について
- 2 男性介護者について
- 3 老々介護について
- 4 ヤングケアラーについて
- 5 ダブルケア等について
- 6 介護をするなかでもいきいきと過ごす人について
- 7 その他

令和4年10月 滋賀県医療福祉推進課

## 調査の目的・内容および手法等

### ・調査目的

家族を介護している方の実態を把握し、「介護者本人の生活の質の向上」のための今後の施策に反映させること。

### ・調査時期

令和4年9月20日（火）～10月13日（木）

### ・調査対象

滋賀県介護支援専門員連絡協議会から推薦された、県内の7保健福祉圏域各1人の主任ケアマネジャー

### ・調査方法

医療福祉推進課員がweb会議形式または訪問でのインタビューを実施

(※)この調査に基づいて記載する事例は、調査対象者から聞き取りした一部であり、区分けした介護者の一般像を表したものではありません。

## ケアマネジャーインタビュー結果概要

### ■介護離職について

- ・現在目につく範囲では必ずしも増えていないように感じる。また、介護休暇の取得の話もそれほど耳に入ってはこない。
- ・介護離職をする人の話としては、60歳を超えている人や定年が近い人が多い印象があるが、「辞め時だった」というのは周囲の思い込みで、本人はつらい思いをしていると聞いた事例もある。
- ・認知症で目が離せないから離職するという話もあるが、今は施設やグループホームで対応できる面もあるのではないか。
- ・将来的には介護離職が増加する可能性もあるし、一方で介護より仕事を優先して（せざるを得ず）介護放棄につながる可能性も否定できないと思う。

### ■男性介護者について

- ・男性介護者が大変なのは、老々介護で夫が主介護者であるケースや、息子と親が二人暮らしで息子が主介護者のケースだと思う。
- ・男性介護者はサービス開始前までに自分の介護の仕方が出来上がってしまい、柔軟な対応ができずに抱え込んでしまうことが多いように感じる。

## ケアマネジャーインタビュー結果概要

### ■男性介護者について（続き）

- ・男性介護者の虐待は、介護者の考えた介護像に合わせようとして、被介護者のできないことを強要することで、暴力やネグレクトに繋がっているように思う。
- ・女性介護者は、夫をデイサービスに送り出している間に友人と会ったり息抜きをするが、男性介護者は妻の帰りを自宅で待つなど、献身的ではあるが息抜きが難しい傾向にあるように感じる。
- ・女性はおしゃべりすることでストレスを発散できるが、男性は社会に貢献できる場、役割があるとよいと思う。集落の寄り合いがそういう機能を果たすこともある。

### ■老々介護について

- ・双方が要介護状態・認知症で支え合いながらなんとか暮らしているという例も多いように感じる。
- ・独居高齢者に比べると支援者がいないこともあり、子どもとの関係がよくても、離れて暮らしているとちょっとしたことに頼れず抱え込むことがあるのではないか。
- ・老々介護の男性介護者は家事より清拭のような身体介護や認知症介護が負担になるという傾向があるが、女性介護者は体力面での身体介護が負担となる傾向があると聞く。
- ・老々介護の高齢者は、移動のための手段がないことが困りごとであり、生活に支障が出ることが多いように思う。

## ケアマネジャーインタビュー結果概要

### ■ヤングケアラーについて

- ・最近ヤングケアラーと盛んに言われるようになり、思い返すとヤングケアラーだったという事例もある。
- ・それほど事例としてはあがってこないが、ケアマネジャーが関わりを持つ以前から生じている事象であり、教育や訪問看護との連携が必要ではないか。
- ・20歳代、30歳代の介護者についていうと、子どもが先立って孫が介護するというケースと、家庭や親子間になんらかの支障があって、孫が介護せざるを得ないケースに分かれるように思う。

### ■ダブルケア等について

- ・両親を介護するという話はともかく、育児と介護の両方に直面するという話はそこまで聞かない。
- ・両親を介護する場合、どちらかに施設入所してもらう例が多いように感じる。
- ・育児と介護の両方に直面していて相談があるのは、40歳代でいうとシングルの人が多い印象がある。

## ケアマネジャーインタビュー結果概要

### ■介護をするなかでもいきいきと過ごす人について

- ・バイク、ゴルフ、華道、ダンス、川柳など、介護だけでなく自分の趣味を持ち大切にできる人が心の余裕も生まれ、いきいきと過ごす方だと思う。
- ・民生委員や自治会の役員を務めている人は、「大変」といっても元気にしている印象がある。
- ・愚痴を吐き出せる場、話を聞いてもらえる場が必要ではないか。
- ・女性は場所、男性は役割が必要だと思うが、役割が介護になってしまうと、息がつまることもあるかもしれない。
- ・親が好きな人とか夫婦仲がよい人など、相手を思いやれるいい関係を築いている人は、いきいきしている傾向があるように思う。幼少時からの家族環境や背景の影響が大きく、愛着形成や信頼関係の構築ができていたら、介護をする年代になっても相手を大事にできるのではないか。

## ケアマネジャーインタビュー結果概要

### ■その他

- ・いわゆる8050のケースで困っているという声をよく聞く。また、地域によっては、50世代が欠けていたり、8050ではなく、もう少し上の世代の9060や10070が増えているところもある模様。
- ・現場の問題は複合的であり、高齢・障害それぞれで完結する話ではなくなってきているし、血縁関係にない同居人や外国人家庭で通訳を挟んでも込み入った話が難しい家庭など、「よくある」家族像がなくなってきている印象。
- ・コロナ禍で高齢者が引きこもるようになり、体調が悪化して介護認定を受けデイサービスに通うようになるなど、地域の通いの場の力が低下している。コロナが落ち着いたら、地域の力を取り戻せないかと思う。